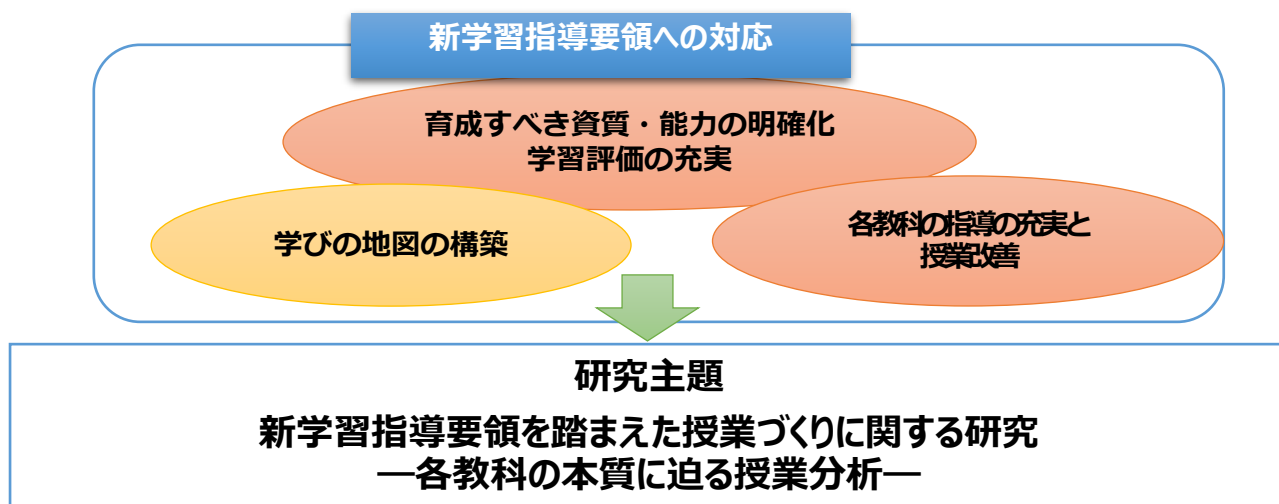


令和3年度 校内研究の御報告

と今後の展開

1 研究への展開

本校では平成29年から令和元年度の3か年にわたり、「新学習指導要領を踏まえた小中一貫した教育課程に関する研究—各教科の指導から考える学びの地図の構築—」をテーマに、新学習指導要領を図式化した「新学習指導要領内容構成表」の作成・活用をとおして、学習指導要領を構造的に理解できるよう取り組みました。このことにより、新学習指導要領の内容をすべての児童・生徒に指導する素地を整えることができました。続いて「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点からの新学習指導要領の理念に迫る研究が必要であると考え、令和2年度より「新学習指導要領を踏まえた授業づくりに関する研究—各教科の本質に迫る授業分析—」を掲げ、研究を推進することとしました。新学習指導要領の理念を理解し、授業という形で児童・生徒に提供することで初めて教育となります。「その教科ならではの見方・考え方とは何か」という視点から授業分析を行い、新学習指導要領の理念に迫る授業づくりができるよう取り組むこととしました。



2 指導講師について

茨城大学教育学部 教授

新井 英靖 氏

<研究分野>

障害児教育方法学（知的障害児の授業研究、インクルーシブ授業論、特別支援教育授業・学習論）



本研究の指導講師として選定し、スーパーバイズを依頼しました。

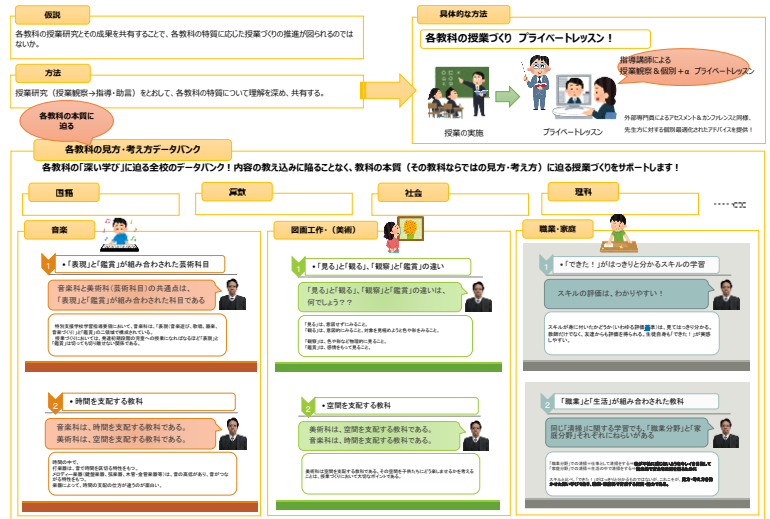
3 研究テーマに対する取り組み

① 研究1年目の取組について

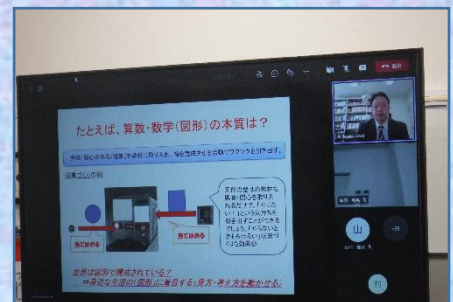
研究初年に当たる昨年度は、アクティブ・ラーニングの視点から方法論を深めました。教科学習を展開するときの授業設計について、授業分析をとおして子供たちが楽しく活動している、そんな中でいつしか、教科的な見方や考え方ができる視点をもって授業づくりをすることが大切であることを共有しました。

②研究2年目の取組について

研究2年目に当たる今年度は教科の本質・見方、考え方を深め、知見を広げる内容論で研究テーマに迫りました。方法として録画した授業を指導講師の新井英靖先生に見ていただき、オンラインにて助言をいただく「プライベートレッスン」という手法を用いました。このプライベートレッスンでは「教科の本質を捉えた授業づくり」「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善」を行いました。新井先生との授業分析とおして、気付かされたその教科ならではの見方・考え方について、ポイントを研究部でまとめ、全教員に共有しました。



今年度の
公開研究会の様子



今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、密を避け、オンラインとオンデマンドによる開催となりました。

4 次年度に向けて

研究2年目に当たる今年度は教科の本質・見方、考え方を深め、知見を広げる内容論で研究テーマに迫りました。教科ごとに育てる力は異なることから、その教科ならではの見方や考え方を子供たちが働かされるよう、教科の特質について研究を進め、「国語科、算数・数学科、音楽科、図画工作・美術科、体育・保健体育科、職業・家庭科」の6つの教科について各教科の本質・魅力・その教科ならではの面白さを探り、深めることができました。来年度は今年度の研究方法を継承し、より多くの教員がレッスンに参加し議論を深める中で、各教科の本質に迫る授業づくりを推進していきたいと思ひます。